

# 「本命」スマートフォンが切り開く 企業モバイルシステムの可能性

PHS 最大手のウィルコムが12月に発売する「W-ZERO3」。企業モバイルシステムの本命端末として、期待が高まっている。その利用シーンと可能性を探ってみた。

欧米市場ではビジネスユースのモバイル端末として、携帯情報端末と携帯電話の機能を併せ持った「スマートフォン」が注目されている。日本でも同種の製品は投入されているが、ここに来て「本命」と評される新製品が登場した。12月初旬発売予定のウィルコム初のスマートフォン、「W-ZERO3(ダブルユーゼロスリー)」である。

シャープ製のこの端末は、ケータイの機動性とPCの高性能をあわせ持つ新しいコミュニケーションツールとして開発された。128kbpsのPHSデータ通信に対応しており、さらに音声通話やEメールといったウィルコムの通信サービスも、一般の音声端末と遜色なく利用できる。

加えて、IEEE802.11b対応の無線LANモジュールも内蔵。会社や家庭の無線LANや公衆無線LANサービスを利用して、最大11Mbpsの高速インターネットアクセスやPCとのデータ交換が可能だ。

この新製品の大きな特徴は、ケータイでPCに近い使い勝手を実現している点にある。OSには「Windows Mobile 5.0 日本語版」、ディスプレイに



展示会でも注目を集める「W-ZERO3」

はケータイでは最大の3.7インチVGA液晶を採用し、QWERTY配列のスライド式キーボードを装備。タッチパネル入力も可能で、状況に応じて使い分けができる。

アプリケーションについてもフルブラウザやメーラー、スケジューラーソフトのほか、PCで作成したExcel文書やWord文書の閲覧・編集、Power PointやPDFの閲覧が可能で、Windows Media Playerも標準搭載しており、ビデオ再生が可能。もちろん、サードベンダー製のソフトもインストールできる。データ格納領域として128MBのFlashメモリーを搭載するほか、miniSDカードを利用して外部メモリーを1GBまで拡張できる。Windows Mobile 5.0 日本語版は今年8月にリリースされたばかりなので、対応ソフトの数はまだ多くないが、今後急速に拡充されるはずだ。

こうした機能を満載しながら、販売価格は「5万円弱」程度( PHSサービスに加入する場合)。発売を前に、ハイエンド層やビジネスパーソナル層の圧倒的支持を得ているのも当然だろう。

## モバイル端末の本命に

実はパーソナルユーザー以上に、W-ZERO3に熱い視線を注いでいるのは、企業の情報システム担当者やSIベンダーだ。

すでに多くの企業では、従業員の生



スライド式のQWERTY配列キーボードとVGA液晶ディスプレイを搭載、PCなみの使い勝手を果たした「W-ZERO3」

産性や顧客満足度の向上を目的とする各種の業務システムを導入している。Eメールやグループウェア、本格的なSFA(営業支援)やCRM(顧客管理)システムだ。形態は各社各様だが、これらの社内システムにアクセスできなければ、ほとんどの企業の業務はストップしてしまう状況にある。

このため最近では、オフィスの外で活動する機会が多い営業担当やフィールドサービスといった職域を対象とする「モバイルシステム」の導入が進んでいる。携帯電話やPHSのデータ通信サービスを利用して、社内と同様の情報環境を屋外でも実現しようという取り組みだ。

今後この種のシステム市場は、1000億円を超えるに規模に成長するという見方もある。

現在、モバイルシステムの典型は、ノートPCに携帯電話やPHSのデータ通信カードを装着して利用するタイプだ。

その一方、ノートPCよりもっと手軽な方法として、インターネット対応の携帯電話やPHSを利用するシステムが構築されている。だが、画面の表示能力

図 W-ZERO3と社内システムとの連携



やテンキー入力の煩わしさがネックとなり、用途は限られたものとなっている。また、ユーザー画面を専用作り込む必要があり、そのための開発コストがかかる。費用対効果の点からも、導入は限定的なものにとどまっている。

スマートフォンとだけ「W-ZERO3」は、こうした問題を解消する。モバイルシステムの本格普及に道を開く「本命端末」と期待されているのだ。

## 標準ソフトを活用

W-ZERO3はそのスペックからも、モバイルシステムにおける活用シーンがかなり広いことが見てとれる。

企業で最も日常的に使われている情報システムはEメールだが、W-ZERO3はPOP3/SMTP対応のメーラーを搭載しているため、社内の既存メールサーバーに直接アクセスできる。QWERTY配列キーボードを活用して、スムーズなメール交換ができるはずだ。

また最近では、多くの企業が社内システムの「Web化」を推進している。情報やアプリケーションの一元管理を図りつつ、どのPCのブラウザからでも複数のシステムにアクセス可能とするためだ。

Webシステムなら、SSL-VPNの暗号化通信を使ったインターネット経由のリモートアクセスも容易に実現できる。こうした環境が整備されている企業なら、PHSの128kbpsデータ通信を利用して、W-ZERO3のブラウザからアクセスできる。

## Push型のデータ更新も

モバイルシステムでは、社内のコンピューターとモバイル機器の間で特定のファイルやデータを交換することによって、内容を同一に保つ「同期化」と呼ぶ技術が広く用いられている。一般的にこれまでは、外出前にデータベースから必要なデータを取得し、外出先で入力したデータを帰社後にサーバーに反映させるといった使い方を想定したものであった。

しかし、無線通信機能を搭載したW-ZERO3なら、外出先からでも随時手軽にサーバーにアクセスし、データを最新のものに更新できるようになる。

さらに、マイクロソフトのExchange Serverなどの同期システムも活用できるため、プッシュ型のデータ更新も可能となる。ユーザーが意識しないうちに、手元の情報が自動的に最新のものに更新され、入力したデータがサーバーに反映されるという使い勝手を実現できるのだ。プッシュ型更新は、これまでのPC/PDAを利用したシステムでは、実現が難しかった機能だ。自ら定期的にチェックを行う必要がなくなるため、従来と比較して大幅な業務効率の改善が見込めるW-ZERO3ならではの機能だと言える。

もちろん、この種のシステムを実現するためには、十分なセキュリティ対策が必要となる。こうしたニーズに対応できる製品として、すでに米インテリシクが法人向けデータ同期ソリューション

「Intellisync Mobile Suite」のW-ZERO3への対応を発表している。グループウェアとの連携、遠隔操作による端末データ消去、企業内データへのアクセス管理など、本格的なモバイル利用環境の整備が期待されている。

このようにW-ZERO3を活用すれば、ノートPCを利用する場合と同等以上の仕組みを構築できるというよいだろう。

## 高いコストメリット

企業モバイルシステムへのW-ZERO3の適用で見逃せないのが、通信コストの削減効果だ。

まず、データ通信と音声通信の端末を、1台のW-ZERO3に統合できる。台数が多くなれば、ハードの費用削減効果は軽視できない額になる。

さらに「データ定額」を利用すれば、W-ZERO3単体でのデータ通信料金の上限が月額3800円で済む。法人向けの音声定額プラン2200円を合わせても月額6000円だ。3G携帯電話の通信料金よりも割安なだけでなく、ウィルコムのPHS間の通話が無料となるわけだから、コストメリットは極めて高い。

W-ZERO3の登場は、機能と通信コストの両面で、モバイルシステム本格普及のトリガーになると見てよい。

お問い合わせ先  
株式会社ウィルコム  
法人サポートセンター  
TEL: 0120-923-157  
\*受付時間平日: 9時~18時(土日・祝日を除く)  
<http://www.willcom-inc.com/biz/>